

# SMBC日興証券 (2018年にSMBCフレンド証券と合併予定)



SMBC日興証券  
代表取締役社長  
清水 喜彦

## 2015年度実績

2015年度の連結粗利益は前年度比317億円減となる3,180億円、連結業務純益は前年度比396億円減となる608億円となりました。第1四半期は、相場の活況に伴い業績好調となりましたが、8月からは中国経済の影響を受けて相場が下落に転じ、投資信託・債券等の運用商品の販売や、トレーディング業務の収益が減少しました。

## 事業環境と今後の戦略

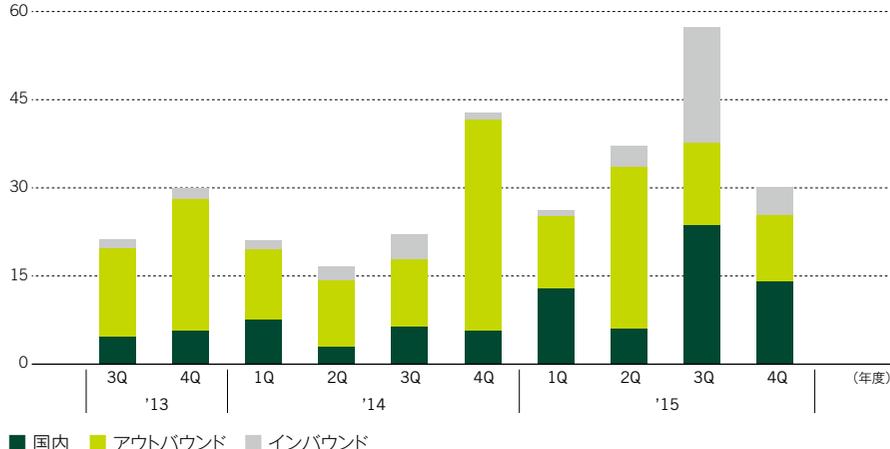
2016年度に入っても、世界的な景気減速の懸念や、日銀によるマイナス金利政策等で、不透明な市場環境が続いています。しかしながら、このような環境下こそ、本当の意味でのコンサルティングを提供する好機であり、お客さまのニーズに応じて最適な商品・ソリューションをご提案していきます。

リテール業務では、4月より戦略的な人員配置の見直しを進め、支店への大規模な人員シフトを実行しました。三井住友銀行とのリテール一体化戦略をさらに進めながら、お客さまの声にこれまで以上に向き合い、質の高い提案を行っていきます。ホールセール業務では、マイナス金利環境下で社債市場の重要性が高まると予想されることから、債券引受業務強化に取り組みます。また、米国では、三井住友銀行との連携によりさらなる成長を見込み、投資銀行本部を新たに設置しました。債券、M&Aビジネスを強化し、SMFGとしてグローバルなソリューションを提供していきます。

また、SMBC日興証券とSMBCフレンド証券は、2018年に合併することを予定しています。この合併により、両社の強みを相互活用しつつ、統合シナジーを発揮し、競争力強化を図ります。

### 日本企業関連の M&A 金額

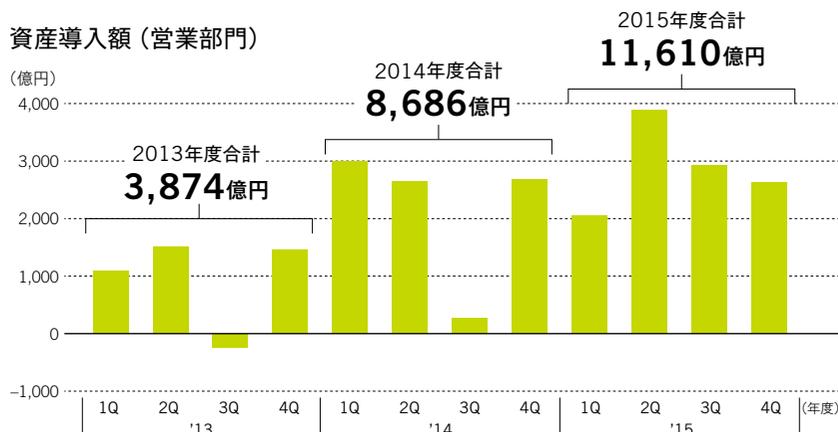
(10億米ドル)



(出所) Thomson Reuters (金額はランク日ベース、自社株買い・不動産取得を除く)

## ▶ 資産導入の強化

預り資産の拡大を通じた安定的・持続的な成長を目指し、全社を挙げて顧客資産の拡大を図っています。2015年度は、営業部門の資産導入額が1兆1,610億円と前年度比約34%増加しました。



## ▶ リーグテーブル

株式・債券の引受業務では、2015年度も大型案件の主幹事を複数獲得しました。IPOの引受では、取組を強化した結果、主幹事獲得数が2位となりました。

また、M&Aでは、シティグループ証券と共同で新関西国際空港のファイナンシャル・アドバイザーを務める等、リーグテーブルは3位に上昇しています。

	2013年度	2014年度	2015年度
株式関連（ブックランナー、引受金額）*1	3位	2位	4位
円債総合（主幹事、引受金額）*2	5位	5位	5位
IPO（主幹事、案件数）*3	2位	3位	2位
M&A（ファイナンシャル・アドバイザー取引金額）*4	3位	13位	3位

\*1 日本企業関連、海外拠点を含む

\*2 事業債、財投機関債、地方債[主幹事方式]、サムライ債

\*3 REITを除く

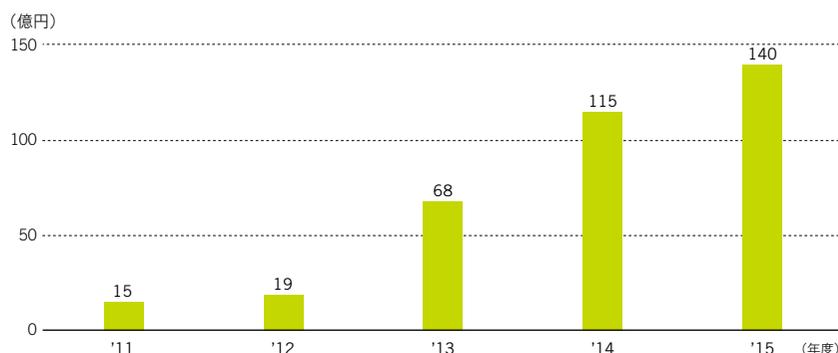
\*4 日本企業関連公表案件、グループ合算

(出所) Thomson Reuters

## ▶ 海外収支の増加

海外の主要4拠点（英国、米国、香港、シンガポール）合計の収支は、安定的に黒字を確保しています。2015年度は、主に米国において、三井住友銀行との連携による債券業務の好調が収益に寄与し、収支は140億円と前年度比22%増加しました。

### 海外収支（海外4拠点合計）\*



\* 英国SMBC日興キャピタル・マーケット会社、SMBC日興セキュリティーズ・アメリカ会社、SMBC日興セキュリティーズ（香港）、SMBC日興セキュリティーズ（シンガポール）の収支の合計値